

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」のキーワードのもと、社会で通用する規範意識を醸成する。さらにこれからの大きな変化が起きるであろう社会で多様な対応ができるように、もう一つのキーワード「脳力開花」を掲げ、基礎学力を確立し生きる力を高めようとする姿勢を育む。

- 1 寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者が安心と感じる学校になる。
- 2 基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるように思考力、判断力、表現力を育成する。
- 3 特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。
- 4 挨拶励行・時間を大切にする・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
- 5 個々の教育的ニーズに応じた支援を実現していき、すべての生徒が他者理解、思いやり、そして自己を大切にする気持ちを持ち、自らの夢や志を持って新しい社会を切り拓く態度を育成する。

2 中期的目標

- 1 社会で通用する基礎学力の獲得をめざす
 - (1) 積極的な学びの姿勢を育みながら、基礎学力の定着を図る。
 - (2) 授業形態の工夫、ICT機器の活用、評価の工夫等を試み、生徒の実態に応じた主体的・対話的な深い学びを促し、よりわかりやすい授業構築に向けて改善を進める。授業のキーワード「脳力開花 解る 創る 伝える」を推進する。
 - (3) 大学進学希望者の増加をふまえ、その達成への過程において、早い段階で意識づけができるようガイダンスを充実させるとともに、多様な進路希望を実現できる取組みを確立する。
 - (4) 生徒の進路希望の変化、高大接続システムの変化に対応したカリキュラム改訂やシラバスの更新を進める。
- 2 多様で変化が激しい社会で生き抜くことができる生徒の育成をめざす。
 - (1) 平素の生活指導（服装指導・遅刻指導・美化活動）により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
 - (2) 他者理解と思いやりを備え、自分を大切にする気持ちを充実させ、自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。
 - (3) 職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす。
 - (4) 生徒会行事や学年行事を活性化し、学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活が送れるよう支援する。
 - (5) 部活動の支援を行い、自発的な行動と達成感をもたらす、自信を深めさせる。また学校の活性化を促進する。
 - (6) 保護者に密な連絡を取り、情報を共有できる環境と信頼関係を構築する。
- 3 地域連携と機能的な校内体制の整備、さらに「中学生が行きたい学校」となる。
 - (1) 異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携と交流機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。
 - (2) 出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして広がりを持つ生徒指導を実践する。
 - (3) 生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。
 - (4) ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行い、「中学生が行きたい学校」となる。
 - (5) 教員の人材育成とともに、適正な勤務体制を確立し、生徒に全力で向かい合える職場となる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成31年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 ○「授業はわかりやすくなる」肯定 5年間で 55.8→58.9→63.0→70.0→66.9 少し低下。新学習指導要領に向けて対応を進めているが、目標について再度検討を行う等により再スタートを試みている。1, 2年生で年2回実施している基礎力診断テストにおいては1, 2年生ともに春よりも成績が伸びており、パフォーマンスにおいては成果がみられる。1年生では毎日のSHRに実施する「毎日テスト」の効果でもあると分析している。ICT環境を整備する予算を獲得できればさらに効率的な取組みが期待できると考えている。</p> <p>【生徒指導等】 ○「困ったことや悩みがあるとき相談できる先生がいる」肯定的生徒 48.3→51.3→50.0→58.0 寄り添い姿勢が進んでいる。さらに研修等により前進させたい。 ○「進路指導を適切に行っている」肯定 74.2→74.3→78.6→81.4 さらにアップ多様な希望進路に込んでいるととらえている。今後は大学進学方法の社会変化に対応していくことが課題である。 ○「生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」肯定 69.5→71.8→73.1→75.8 と伸びている。</p> <p>【学校運営】 ○「先生方は頑張ってくれている」では 63.0→73.2 と盛り返した。組織の立て直しが進んでいると考えている。</p>	<p>第1回(7/10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画についての説明。 ・生徒・保護者の安心・安全については引き続きアンケートを指標として、寄り添いの姿勢、わかりやすい授業などを目標に改善に努めている。部活動や学校行事の活性化もその結果である。 ・生徒の進路希望が変化している中、特に進学への対応を進めることが課題であることを説明。その一つとしてカリキュラムの再編をめざしている。特に英語と国語の増単位の必要性が教員の中からも指摘されている。 ・生徒の居場所としてまず学校が楽しいことが大切であるとの提言を受けた。 ・1, 2年生ではそれぞれ約100名の生徒については基礎的な学力を備えていて、伸びる可能性を持つ。低学年の時から可能性を具体的に提案していくことが必要である。 ・大学進学については生徒の主体性や目的意識が大切だ。進路プログラムを充実させ、過去の価値観にとらわれないことが将来に活かすことができるキャリア教育を進めるよう求められた。 ・e-learningについて確認を行い、守口東での取り組みにおいても検討をしてみても提言を受けた。 ・6月18日の北部地震を受けて、本校の当日対応と防災体制について報告をした。 <p>第2回(12/11)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善について SWOT分析を実施し、生徒の成長を見定めているのは教員の方でないかという結論を導いたことはすばらしい。これからも生徒目線で考えて実践を続けてほしい。 ・授業改善の始めとしては、ICTの活用が重要ではないか? →設備環境の充実が課題 ・手法にとらわれず、「何のために…」という考えることが重要でという大前提を確認したことは大事。それを忘れずに進めることが大切ではないか。→教科ごとに「生徒につけたい力」をまとめる研修を行うことを報告した。 ・人権推進教育について、今年度は特にジェンダーフリーについての取り組みを重視している。ここから他者理解の形成を進めることを説明した。 ・生徒会行事では生徒会執行部が主体的に行っているのはすばらしい。 <p>守口市のイベントで本校のダンス部が参画していたが、地域によく貢献していると受け止めていただいた。道徳教育について進めていくことを求められた。</p> <p>第3回(2/20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テストについて⇒1, 2年生で伸びている。 ・学校教育自己診断 生徒版 授業がわかりやすい以外は毎年肯定率が伸びている。 ・平成30年度 学校経営評価報告 ・平成31年度 学校経営計画承認 ・協議および意見交換

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 社会で通用する基礎学力の確立	<p>(1)積極的な学びの姿勢を育みながら、基礎学力の定着を図る。まずは主要3教科での強化を図る。</p> <p>(2)授業形態の工夫、ICT機器の活用、評価の工夫等を試み、生徒の実態に応じた主体的・対話的で深い学びを促し、よりわかりやすい授業構築に向けて研究を進める。授業のキーワード「脳力開花 解る 創る 伝える」を推進する。</p> <p>(3)大学進学希望者の増加をふまえ、その達成への過程において、早い段階で意識づけできるようにガイダンスを充実させるなど、進学希望が実現できる学力保障、進路指導の取組みを強化する。</p> <p>(4)生徒の進路希望の変化、高大接続システムの変化に対応したカリキュラム改訂やシラバスの更新を進める。</p>	<p>(1) ア・1年数学：習熟度別2クラス3展開 1年英語(英会話)：1クラス2展開の少人数 ・1年国語(国語総合)：1クラス2展開の少人数 イ・教育産業の実力テストを実施</p> <p>(2) ア・授業研究チームによる研究。実践だけでなく洗練。 ・授業研究チームからの啓発を軸に新学習指導要領への移行 他県への研修参加、WEBサイトでの研修 イ・普通教室にプロジェクターを設置し設備を整えAL的な視点からの授業を研究し、実施授業を多く展開する。 ウ・退学者数の減少 エ・e-learningの研究</p> <p>(3) ア・元キャリア Co を校長マネジメントで招聘し、専門的なアドバイスを受ける。 イ・大学からの出前授業を充実 ウ・英語教育での外部検定の対応</p> <p>(4) ア・カリキュラムの変更</p>	<p>(1) ア・少人数アンケート結果： 数学 肯定81% →85% 英会話 肯定76% →80% 国語総合(新) 肯定92%→維持 イ・教育産業の実力テスト結果向上 年間2回(1,2年生) ABゾーン数を春から秋に20以上増 D3ゾーン8→21 下位層は増加8以下に</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断 (H29 わかりやすい 肯定70%→75%) ・「授業研究チーム」による研究 授業を年間2回、 イ・学校経営推進費の獲得 ウ・退学者数の減少4名→2名 エ・アプリについて研究(生徒)</p> <p>(3) ア・年間25回 イ・大学出前授業講座数 10講座 ウ・本校の体制を決める</p> <p>(4) ア・カリキュラムの変更</p>	<p>(1)少人数アンケート結果：まだ結果が出ていない ア 数学 肯定81.7% →92.0% (◎) 英会話 肯定76.3% →92.8% (◎) 国語総合(新) 肯定92.7% →80.9% (△) イ 基礎力診断テスト(人数) 2年 ABゾーン 春13→秋25 12増 Cゾーン 春50→秋78 D→Cへは上昇させたが、ABの増加は目標に至らなかった(△) Dゾーン 春174→秋133 D3ゾーン24→19 下位層は減少させた 1年 ABゾーン 春11→秋19(△) (◎) Cゾーン 春108→秋81 Dゾーン 春121→秋126(△) 上位目標人数には届かなかったが、1,2年ともに伸ばしている。 1年の下位層において充実を図ることは課題である</p> <p>(2) ア.イ.エ「授業がわかりやすい」肯定 全体58.9→63.0→70.0→66% 授業改善は停滞。(△) ただし、成績は伸びているので、生徒がわかりやすいと感じるように授業を構築すればさらなる成績向上が見込める</p> <p>ウ 中退者数 8名→4名→0名 (◎)</p> <p>(3) ア 25回活用 成果あり 就職内定100% (◎) イ 大学出前講座は 5講座(△)</p> <p>(4) ア カリキュラムの変更を実施 (○)</p>
2 多様で変化が激しい社会で生き抜くことができる生徒の育成	<p>(1)平素の生活指導(服装指導・遅刻指導・美化活動)により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。</p> <p>(2)他者理解と思いやりを備え、自分を大切にできる気持ちを充実させ、自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。</p> <p>(3)職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす。</p> <p>(4)生徒会行事や学年行事を活性化し、学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活を送れるよう支援する。</p> <p>(5)部活動の支援を行い、自発的な行動と達成感をもたらす、自信を深めさせる。また学校の活性化を促進する。</p> <p>(6)保護者に密な連絡を取り、情報を共有できる環境と信頼関係を構築する。</p>	<p>(1) ア・遅刻数、欠席者数を減らす。 イ・皆勤者数の増加</p> <p>(2) ア・守口東高校アンケートを実施し、悩み等を早期に聞き取り、寄り添い、前向きな姿勢に導く。</p> <p>(3) ア・1年生からの進路プログラムの充実 イ・国語・数学・英語に主要3教科の基礎学力を充実させる。</p> <p>(4) ア・お互いを認めて励ましあったり支えあえるように機会を提供する。</p> <p>(5) ア・近隣の中学校を対象に地域大会「守東カップ」開催 イ・地域との連携による活動</p> <p>(6) オ・PTA活動を活発化して、保護者の関心を促し、ともに生徒の成長を支援する。 ・寄り添い姿勢を備えた保護者対応。</p>	<p>(1) ア・生徒遅刻回数の減少 遅刻4982回→4500回 イ・年間皆勤者数の増加 1年61、2年44、3年57 → 1年70、2年70、3年50</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断 「生命を大切にすることや社会のルールを守る態度を育てようとしている」の増加 H29 73% →80% 守口東高校安心アンケート安心度 34期生(新3年生)3.6、3.6→3.7、3.9 35期生(新2年生)3.8、3.6→3.8、3.8</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断 進路について肯定を増加 H29 78.6%→H30 80% イ・教育産業のテスト結果の向上 D3ゾーン8→21 増加数8以下に ABゾーン数を春から秋に20以上増</p> <p>(4) ア・行事後のアンケートによる 学校教育自己診断 70%→75%</p> <p>(5) ア・部活動加入率を伸ばす。 5月 42%→50%、 ・サッカー部、女子バレー部、アムフト部、ダンス部で実施</p> <p>(6) ア・守口東メールマガジンの送信回数 60回→維持 イ・学校教育自己診断 「ホームページや携帯メールマガジンで学校の様子がよくわかる」 H29 肯定64.2% →70%</p>	<p>(1) ア遅刻数 大小遅刻 4982回→4662回(△) イ皆勤者数1年61、2年44、3年57→1年77、2年65、3年41 (○)</p> <p>(2)学校教育自己診断において ア 「生命を大切にすることや社会を守る態度を育てようとする」 73.1%→75.8% 毎年増加しているが。(△) 「困ったことや悩みがあるとき相談できる先生がいる」 50.0%→58.0% 守口東安心アンケート数値は上昇した。下線が今年 3年 3.60→3.46→3.63→3.65→3.59→3.63 2年 3.85→3.59→3.56→3.84 1年 3.67→3.78 上昇(△)</p> <p>(3) ア 進路指導 学校全体 78.6→81.4 毎年増加 (◎) イ 1-(1)-イ で記述</p> <p>(4) ア行事 学校教育自己診断 70.6%→76.7% (◎)</p> <p>(5) ア ・部活動加入 5月次(3学年) 42.7%→35% (△) イ ・サッカー部、女子バレー部で実施 ・ダンス部が地域の催しで参画 (○)</p> <p>(6) ア「守口東メールマガジン」 60回→80回 (◎) イ 学校教育自己診断 保護者「HPや携帯メールマガジンで学校の様子がよくわかる」 肯定64.2% →67.4% (△)</p>

<p>3 地域連携と校内体制の整備、さらに「行きたい学校」へ</p>	<p>(1)異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携と交流機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。 (2)出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして広がりを持つ生徒指導を実践する。 (3)生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。 (4)ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行い、中学生が行きたい学校となる (5)教員の人材育成とともに、適正な勤務体制を確立し、生徒に全力で向かい合える職場となる。</p>	<p>(1) ア・地元中学校との連携 ・支援学校との連携 ・大学からの出前授業等 (2) ア・出身中学との緊密な連携による生徒指導の充実 イ・入学前に中学校や関係機関との連携を図り、寄り添いの指導を進める。 (3) ア・全教員による相談機能を強化するために研修を実施。 イ・専門的なアドバイスを受けながら、関係機関と連携しながら相談を受ける。 (4) ア・HPのタイムリーな更新 イ・「守口東高校メールマガジン」による情報発信 ウ・校内モニタを活用した生徒活動等の情報発信 (5)時間外勤務時間を短縮 ア・時間外勤務の減少 イ・教員の授業力向上のための研修をWEBで学ぶ</p>	<p>(1) ア・地元中学校への出前授業回数 3校 ・支援学校との連携 維持 ・大学との連携 6講座以上 (2) ア・1年生による母校訪問 訪問校 全校校 イ・入学前中学校訪問数 全校 (3) ア・職員研修を1回実施。 イ・SSW との年間6回以上のケース会議 (4) ア・ホームページの新着情報更新回数の増加 30回→40回 イ・「守口東メールマガジン」の発信 発信回数 60回→維持 ウ・校内モニタの更新 52回→維持 (5) ア・時間外勤務時間一人平均短縮 一人平均 329h→310h イ・全国の授業実践を学べるサイトの閲覧により研修を効率化する</p>	<p>(1) ア 中学校への出前授業 3校 (○) 守口市支援学校との交流は実施 (○) 大学との連携 5講座実施 (△) (2) ア・1年生による母校訪問 訪問者数全校 (○) イ・入学前中学校訪問数 全校 (○) (3) ア・職員研修を1回実施 (○) イ・SSWは3回活用 (△) (4) ア・ホームページの新着情報更新回数の増加 30回→20回 (△) イ・「守口東メールマガジン」の発信 発信回数 60回→80回 (◎) ウ・校内モニタの更新 年間52回 → 27回 (△) (5)時間外勤務 ア・時間外勤務時間一人平均短縮 一人平均 330h→329h (△) イ・サイトの効率的な活用事例はなかった (△)</p>
--	---	---	---	--